

## 平成30年度第1回国立大学法人熊本大学医学部附属病院アドバイザー会議 報告書

国立大学法人熊本大学医学部附属病院アドバイザー会議規則第2条に基づき、点検結果等を以下のとおり報告します。

### 1. 会議日時・出席者等

- ・日 時 平成31年1月17日（木）12:00～13:23
- ・場 所 本部棟3階 特別会議室
- ・出席者 原田学長、竹屋委員（委員長・議長）、甲斐委員、二塚委員、高橋委員、福田委員、星子委員
- ・欠席者 田川委員、田嶋委員
- ・陪席者 谷原病院長、有松理事、浅井監事、深澤事務部長、川添総務課長、丸山経営戦略課長、五島経理課長、田尻医事課長、原医療サービス課長

### 2. アドバイザー会議での意見

(病院長の専任制及び次期病院長候補者の人材育成について)

- ・病院の事を考えると多くの課題がある病院運営において、管理者としての業務や他職種の見解を幅広く聞くためにも診療科長との兼務でできるような内容ではないことから専任制が望ましいのではないかと。
- ・今後、若手の優秀な人材が管理者である病院長になるのを拒むことも課題である。
- ・次年度から、病院は大学の直轄の組織になって、学長の任期は6年で、学長が病院長の人事権については強制力を持つのであれば、病院長は学長と協調して病院運営を行っていくためにも、中間審査も含めて学長の任期にあわせることも検討してはどうか。
- ・現在の執行部において、次期幹部候補者の人材育成に力を入れて、経営リーダーシップをこの人に発揮してもらいたいというような問題意識で候補者をみているかどうか重要である。
- ・病院長候補者を副院長にし、人材育成（経営・病院運営のスキル・研修等）することがとても重要である。
- ・大学病院は、地域医療の最後の砦としてがんや多くの合併症患者などの不採算医療やへき地医療への貢献、医療人育成、高度先進医療の開発の拠点、研究等も使命としてあるため、経営面のみで病院長の力量がフォーカスされるのは問題である。地域貢献と経営、医療安全も含めてのバランス感覚が病院長としては重要な要素である。

(病院運営審議会に研究力向上の視点から基礎系教員の意見を反映できないか。)

- ・現在基礎系の教員は入っていないが、次年度から、基礎系の富澤生命科学研究部長・医学部長をオブザーバーとして出席いただくことを検討している。

(熊本大学病院の役割)

- ・熊本県で唯一の大学病院であり、地域医療支援という大きな役割がある。大学病院は各診療科の集合体であるが、病院長は各診療科長の代表という位置づけであることから、地域医療支援・熊本県全体のネットワークの基幹病院として適切な人材派遣が求められている。

(患者視点の病院情報の発信について)

- ・有料の広告費で賄われている病院情報誌以外に、熊本県民が県下の病院のいろいろな情報を検索できるシステムや患者・その家族の視点での情報発信が必要ではないか。
- ・患者や県民がどのような情報を必要としているか調査することも必要ではないか。

(利益剰余金について)

- ・民間企業が独立採算を保って運営できるのは、利益剰余金という過去の利益を蓄積

できるところであり、バランスシート経営が成り立つところである。大学病院の経営は、単年度予算で収支バランスをとっていることから、累積利益ができない状況である。このことが大学や病院経営の最大のポイントである。文部科学省がそれぞれの大学でこの経常利益を蓄積することを認め、その分、中長期的なスパンで病院運営を行うことを打ち出せば、今後の病院経営もやり易くなり財政負担も軽減されるのではないか。運営費交付金をそのまま削減していくのであれば、文部科学省は、各大学病院の剰余金を認めることも検討すべきではないか。

平成31年3月 日

国立大学法人熊本大学医学部附属病院アドバイザー会議

委員長 竹屋 元裕